

## 哲学カフェ de ぎふ

せんしゅう

## 千秋まちかど文庫 通信



運営委員会発行(記録:安藤明弘、編集:中川健史)(主宰:吉田千秋 090-7917-9602 yoshida0@sepia.ocn.ne.jp)

第166回哲学カフェ例会(2022.4.14)記録

## 《天皇制・皇室のいま、これからどうするのか?》

「このテーマで若い人の意見も聞き、世代間ギャップも判明し、大変よかった。今後  
もこういう機会を増やしていければよいと思った。」

## 問題提起 吉田 千秋

- 今日の例会は、「NPO法人・仕事工房ポポロ」の皆さんの協力で、はじめての試みとして、会場外の人々とオンラインでつないで行ないます。技術操作をしてくれる高校生のMさんやZOOM参加の方も比較的若く、楽しみです。
- さて、今回は天皇制及び皇室の在り方について意見交換したいと思います。まず戦後生まれた新しい天皇制、象徴天皇制について簡単におさらいしておきます。この制度は、天皇が国家の絶対的な権力であった戦前と異なり、天皇は儀礼的な行為のみを行う国家のシンボル(象徴)、国民統合のシンボルで、権力を一切持たない非政治的な存在に過ぎません。この象徴天皇制は、戦前の戦争責任が問われないままに継続した「昭和天皇裕仁」が死去し、「平成天皇昭仁」が継ぎ、高齢のために「象徴としての公務」ができないとして、「令和天皇徳仁」に代替わりし、既に70年以上続き、以前の天皇制を知らない人たちが大多数を占めるようになっていきます。
- この象徴天皇制について、敗戦後しばらくは、国民も少なからぬ違和感を持っていたと思います。というのも、昭和天皇は先の戦争における最高責任者ですから、天皇制廃止意見も相当数ありました。しかし現在、共同通信が行った最新の世論調査では、国民の4分の3が現在の天皇制を支持し、廃止を求める者の割合は7%程度です。しかし自民党の保守派が求める様な、戦前の天皇制に近い大きな権限を天皇に与える意見の支持は僅か4%に過ぎません。象徴天皇制はかなり定着していると言えます。
- しかし、現在の象徴天皇制が将来にわたって安定的とは言えない問題があります。一つは、皇位の継承問題です。現在の皇室典範で皇位継承は男子に限

られていて、いまだにこれに固執する勢力がいます。しかし、一般国民は女性天皇また女系天皇に抵抗感がなく、どちらの場合も8割以上が支持しています。女性宮家の創設などにも国民は前向きなのに、政権を担う右翼勢力とのギャップは埋まりません。



- もう一つ根本的というべき問題があります。そもそも「象徴」である天皇は、具体的に何をすべきなのかという点です。日本国憲法は、天皇の果たす役割は国事行為と称される儀礼的なものに限定されると定めています。ところが、平成天皇の果たした行為・役割について、憲法学者の渡辺治氏が興味深い指摘をしています。リベラルな考えの持ち主で、憲法を尊重すると言っていた平成天皇が、様々な「公務」を務め、時に政府が本来行うべきことを「代行」し、皮肉にも憲法の枠を逸脱してしまった、と。特に、外国の戦地訪問の際、日本の過去の戦争を意識した発言や行動は明らかに政治的な性格を帯びたものでした。
- 日本は君主制ではなく、議会制民主主義の国であり、何よりも国民が主権者の国です。戦争や災害について政府がしっかり責任をとる行為・施策を行なわず、その代行を行なう天皇を賛美しても何も変わりません。天皇は政治的権力を持っていないので

すから。天皇制のあり方は憲法に適合したものであらねばなりませんし、政治権力が天皇を利用しない様に、私たち一人ひとりが主権者としてしっかりしなければならぬように思います。こうした観点も念頭

に置きつつ、現在の象徴天皇制、皇室の問題について率直な意見を交換したいと思います。

## <意見交流>



\* 真子さんの結婚をめぐる騒動が世論を賑わせたが、皇室の人間も普通に生きたいと思っていると改めて感じた。周りが古い価値観を天皇家の人たちに押し付けている様に思われる。個人的に女性天皇に違和感はない。伝統にこだわる必要はない。天皇制も時代に沿って変わって行くべきだ。

\* 天皇の存在が私たち庶民の生活にどんな役割を演じているかを考えるとどうもはっきりしない。昔、ボーイスカウトに入っていて、当時皇太子妃だった美智子上皇后がボーイスカウトのキャンプを訪れた。当時人々はまだ恐れ多いという感覚を持っていて、お辞儀をしたままともに顔を上げることができなかった。皇室の人間に対する一般市民の感情も随分違うものになってきた。

\* 天皇は明治が始まった頃から、元々象徴的存在だったのではないかと。天皇はもっともそれ以前も時の支配、例えば、将軍権力の正当性を裏付ける権威の源であるような存在だった。ただし天皇は庶民から意識される存在ではなかった。天皇に対する意識は、明治維新の後、武士階級にとって絶対的存在であった将軍を越えた権威として、国民統合の目的のために作られたものだと思う。

\* 明治維新の指導者は外の世界と向き合う際、日本という国にはっきりと意識されるアイデンティティがないことに危機感を持った。そのために明治憲法の起草者伊藤博文などは、一つの民族であるという認

識の核になる存在として、天皇を利用することを考えた。天皇は確かに象徴的機能を有していたが、日本という国家を体現する不可侵の絶対的存在でもあった。敗戦によって日本は米国の主導する連合軍の統治下に置かれ、天皇は政治的に中立化され、大きな権力を持っていた宮中勢力は政治プロセスから排除された。これによって天皇制そのものが非政治化され、天皇は敗戦前とは異なる純粋な意味での象徴的存在となった。

\* 日本の本質を究めようとした水戸学は、天皇の存在を中心に置いた国家体制、国体思想を構築した。水戸学の考えが明治維新の新しい国家の構想に影響を与えた。

\* 戦前の日本人は、日本神話をよりどころに、日本は、天空の主神、天照大神の子孫が地上に下り、それ以降現在に至るまで天皇として治める国、即ち、神聖で冒し難い万世一系の天皇が統治する国、と教えられた。明治の指導者たちは、日本神話に基づいた皇国史観が欧米におけるキリスト教の様な役割を果たすことを期待した。ある意味、それは思惑通りに、日本人の心に根を張ることになった。米国も占領統治に天皇を利用することを考え、昭和天皇の戦争責任を問わなかった。

\* 私たちが知っている天皇制は主に明治以降に作られたものだ。その天皇制は敗戦後、象徴天皇制に姿を変え今日まで続いてきた。色々問題はあるが、制度として定着したと言える。思想家の内田樹氏は「人間は聖なるものを必





要」としていると言う。ただ天皇家の人たちは籠の中の鳥の様に自分たちの思う様に生きられない可哀な人たちである。彼らは私的な個人を犠牲にすることを強いられる。

\* 戦前生まれの人たちは学校で毎朝行われた朝礼で、100数代続く歴代の天皇の名前を全部反芻することをさせられた。天皇はただひたすら絶対的な権威で神聖で畏れ多いものだった。天皇制は民主主義を阻害するものであってはならないが、日本の文化として残るだろう。

\* 多くの人は、天皇の存在が自分の生活に重要な意味を持っているとは考えていない。天皇と国民の関係は距離があって希薄なものに留まっている。平成天皇は危機感を持っていて、国民に接する機会を持つことに努めてきた。天皇家の人たちも当然皇位継承の問題について考えを持っていると思う。彼らは女性天皇を認めても構わないと考えているかもしれないが、何も言わせて貰えない。

\* ポポロの活動に参加していたある人が、NHKのラジオの生番組に出演して放送中に、うっかり天皇の名字は何なのかと質問した。番組終了後、その人は、右翼の抗議などトラブルを心配した放送局側の判断で、裏口から帰ることになった。当人に天皇制を批判する意図は全く無かった。天皇に関する発言は多くのことがタブーになっている事に気付かされた。未だに自由な議論が許されない空気がある。

\* 天皇は日本人のアイデンティティの源として権力によって政治的な利用価値があった。現在も同じ様に民族的な自己認識に欠かせない存在かどうかは不確かである。天皇家の人たちはただ専ら覗き見趣味的な好奇心の対象となっている。いずれにせよ天皇制は民主主義の原則に適合したものであらねばならない。



\* 天皇は自分と無縁な遠い存在で、天皇制についてこれまであまり考えてこなかった。ただ個人的に天皇家の娘愛子さんなど皇族の人たちは、何時も好奇心の対象にされていて、普通に生きられないので気の毒だと思う。今日色々な意見を聞いて、これからもっと考えたい。

\* 国による皇室関係の支出が200億円以上あるということだが、要するにそれだけ国民の税金が使われているということである。しかし、我々はどういうことにどれだけ使われているかよく知らない。秘密という訳ではないかもしれないが、もう少し、内訳を明らかにして、精査できる様にしたい。

\* 天皇家は天皇制の有る無しに関わらず存在し続ける。誰も天皇家の人々をどうこうしようと考えている訳ではない。あくまでも国の制度として天皇制がどういう役割を果たしているのか考えればよい。

## <意見交流の最後に> 吉田千秋

・私たちは主権者として、天皇制の有り方について意見を述べる権利があります。長い間天皇家について語ることは事実上タブーでした。閉ざされたカーテンが開かれ、一見何でも自由に議論できる様になった様に見えます。しかし“菊のタブー”は今もって完全に払拭されていません。メディアは不遜に思えるほど何でも報じている様に見えますが、天皇制の根幹に触れる問題を論じることはタブーとなっています。そうしたメディアの報道姿勢には、権力を握っている保守派の意向が反映されていると思われます。



・日本の歴史を振り返って、天皇が政治の実権を握っていたのは奈良時代くらいまでで、平安になると藤原氏が天皇の外戚として、朝廷の政治を動かすようになり、平安の終盤、武士が台頭し、幕府を開いて武家の棟梁である将軍が日本の新しい支配者となりま

した。天皇は将軍の権力を権威付けのために必要とされましたが、政治的に疎外された形式的な存在に過ぎませんでした。日本は、明治維新を通じて、天皇を中心とした中央集権的な国民国家に生まれ変わりました。しかし天皇が実権を握った訳ではありませんでした。天皇がただ支配の正当化のために必要な存在であることは、それまでと変わりませんでした。日本の歴史は、支配の変遷だけを見る限り、常に天皇をどういう風に利用するかは歴史だったと言えるかも知れません。

・象徴天皇制は国民の支持を得ていますが、今後、天皇の地位が絶対安泰であるとまでは言えません。天皇制の在り方、天皇の役割をめぐる議論がどうなるにせよ、私たちは常に国民主権の立場から考える必要があります。どんなものも歴史と共に変化するのであり、変化の必要に応じて変えられるべきものがあります。天皇制も例外ではありません。天皇制は私たちの社会の発展に適合したものであるべきです。タブーを作らず、国民の様々な意見を考慮して、自由に議論されることが求められます。

## <例会感想、意見、便りなど>



### ○<前号(No.165)を読んで>

通信、ありがとうございました。

コロナ禍もふつとぶ勢いで、毎日、毎日、ウクライナの惨状が報道されて、心が潰れる思いです。なんとかプーチン氏を止めることはできないのか…。

20世紀の悲惨な戦争を経験して、21世紀にはもう国と国との戦争はないだろうと思っていましたのに…。

先生の最後のお話のことをよく考えてみたいと思いました。本の紹介もありがとうございました。島田さんのことばにほっこりしながら。 (あ)

### ○<ウクライナ問題の討論から>

いつも「哲学カフェ通信」有難うございます。とにかく課題が難しくて自分の意見をまとめることができなくて。でも、ウクライナ問題は一方的なニュースが多いように感じていたので通信を読んで少しホッとしてました。

私も国民の命を守ることを最優先してほしいと感じていたし、時間がたつにつれ長引くことで利を得

る国が出てくるともっと難しくなりそうで心配です。ロシアも安定的なエネルギーの供給を確保するための役割や責任を引き受けていたらどうであったのかしらとか、ウクライナもヨーロッパとロシアとの調整役を引き受けエネルギーの安定供給に貢献出来たらどうであったのだろうかなど考えます。

世界中の普通の人たちは困っています。どうしたらいいのかもわからないまま。どこが、誰が停戦に導いてくれるのだろうか？ 途方に暮れているのはきっとみんな同じなのでしょうね。 (宇都宮)

### ○<例会に初めて参加して>

初めてこの会に参加してみて、天皇象徴制という制度そのものに対して議論するという事がまず面白かったし、今回話し合った方々はこの制度の恩恵が分からないから無くてもいいのでは？ という意見が多かったのがびっくりしました。

私は、天皇が象徴であることは、政治と切り離された心の拠り所であり、だからこそ震災で被害を受けた方々は心が温まるのかなと、家に帰ってからですが感じました。また、女性天皇が生まれてもいいのかという話では、ジェンダー的観点から見たら男性でないといけない理由が特に無いので、これからそういう制度も認められていってもいいのではないかと感じました。

知識が少なく、中々議論に参加はできないと思いますが、またよろしく願い致します。

(しば・高校生)



### ○<例会の場に接して>

大変実り多い夜を過ごさせていただきました。自由に発言する場、それを楽しむ人生の先輩方、仕事や日常から離れて、一個人として、それぞれの意見を話し合う場そんなになんかと思いません。しかも平和的に、このご縁に感謝しております。カフェが続いていく事を願っています。(ユミ)

### ○<天皇制はなくてもよいのでは>

「天皇制について、どう思われますか？」と聞かれたとします。漠然として答えにくい問いかけですが、私は「なくてもよい。不必要なものだ。」と言い切りたい。一般市民を含めて、今回のカフェ参加者のほとんどが、そのような考え方ではなからうかと思う。一人くらい天皇制支持者がおられたら面白い議論の場ができたのではないかと思う。

国民全体が天皇家に無関心になるとどうなるのか。困るのは天皇家と皇室の権威を利用しようとする、政府・国家権力の側ではなからうか。日本の歴史から見て、天皇制は一般国民にとっては何の利益もない。税金の無駄使いでもある。それどころか、「日本民族の国家的統合」のためとか言って、「国民主権」の憲法原理が弱体化、再び天皇の名の下に、国民が戦争に動員されるような事態なれば、最悪である。(MS)

### ○<一筋縄ではいかない天皇制>

日本国という国民国家は、日本人の共同幻想によって成立する幻想の共同体だとよく言われますが、そうすると国民国家を形成するために導入された天皇制というシステムも共同幻想ということになります。例会では天皇制は自分にとってそう重要ではなくあまり意味のないことだという意見が多く、自分もそう思います。

ただ天皇制は日本の文化、慣習、制度のすみずみにまで入り込んでいる気がするので、天皇制が自分の行動に影響を与えていないかとか、影響を与えられているのに無理やり隠蔽していないかよく吟味することも大事かと思えます。

というのは共同幻想ということ考えると、通貨制度ひとつをとっても、なぜ原価二十円のそれも不換紙幣の一万円札が一万円の価値を持って今のところ流通しているのか、それは国民の大多数が一万円札は一万円の価値を持っているという共同幻想に

よって成立している部分  
が大きいのではないで  
しょうか。社会は、共同幻  
想という実体のないもの  
によって成り立っていると  
考えると不安にもなり、天  
皇制もその一つと考える  
と一筋縄ではいかないよ  
うにも思いました。  
(たなか)



### ○<天皇制、「ウクライナ」と重ねてみたが>

ロシア軍の侵攻によって廃墟になったウクライナの街を知るようになった昨今、ふと「もしこの二つの国に大統領の上に日本の天皇のような存在があったら、こんな酷いことになってないのでは？」という観念が湧いてきたことがあった。本当に地獄のような惨状に、人間の心を持つ誰かが上からたしなめることができれば、という単純な発想からだ。

しかし、次の瞬間、「否！それは駄目だ。かつて天皇は、軍服を着て『天壤無窮の皇運を扶翼すべし』と命じていたし、権力争いの中心にいた時もあり、武力で実権を握った者たちに何度も何度も翻弄されてきたではないか」など、歴史を思い出し、現実に立ち返った。

「ウクライナに国王がいたら、今頃は大変だろうな一、今後どのような責任？をとられることになるのだろう？」心に浮かんだ冒頭の観念は、もう少し想像し続ける必要があったようだ。天皇とか国王とか、良くも悪くも、一瞬を切り取って論じない方がいい。

戦前現人神で「統治権を総攬する」地位にいた昭和天皇は、戦後新憲法で「国政に関する権能を持たない」とされたが、その後いくつかのバイオレーションを起こしたとの記録もある。「国民の象徴」として「国民を励ます」役割を誠実に遂行したと評判の高い平成天皇も、高齢で公務を全うできないとして退位された際、その過程に関わった宮内庁の幹部二人は処分された。政治とは無関係とはなっている、天皇はサイボーグではないのだから、齟齬が起きる。

天皇も人間、人生もいろいろ、誰もが縛られるのは嫌。祭り上げて、人間尊重！できるかな？

(フィリピンウオッチャー)

## ○＜天皇家について考える＞

海外では武力闘争などにより、王室の入れ替わりがあるのに対して、日本ではずっと朝廷(皇室)は崇められて、その地位が維持されてきているのは、日本人の特殊な国民性であり、今後も大切にしていく必要があると認識していた。しかし、実態としては国の統治方法の違いであり、歴史的には現代に至るまで、貴族や武士が真に朝廷を慕ってのことではなく、自分の威信を示すために朝廷を利用してきたと知り腹落ちした。

しかしながら、こうした国のあり方も一つの文化であり、自分のように考えている国民も少なからず存在していることを踏まえれば、やはり固有の「文化」として可能な限り保存していく意味は大いにあるだろう。

一方で、天皇家の精神的負担、国民の税負担も大きいことから、男系男子の継承を原則としつつも、女系天皇や女性天皇を許容するなど、時代時代で微調整を重ねる中で、徐々に天皇家の存在意義が薄れていき、フェイドアウトしていくのが望ましい姿ではないかと思った。  
(ryosa)

## ○＜初めてオンラインで参加して＞

哲学カフェにオンラインで参加しました。はじめの方は声が少し聞きづらかったが、あとはスムーズでした。

約220億円?の税金(宮内庁の予算)…どこかに使い道があるのにと思ったのと、吉田千秋さんがとても分かりやすく話してくださったので、資料が手元になくても良かったです。が、次回のテーマ、ミャンマー問題あたりになると、かなりの難易度かと思われるため、資料提供してほしい。私も天皇制廃止7%の中の一人である。天皇制の説明はできないし、誰かも言っておられたが、天皇は国民の代表者じゃないからだ。

今回、参加してみて、感想を言う場が来るとは思わず、ドキドキしてしまった。(突然、振らないでください!!)(笑)

分かりやすく話してくださった皆さんと、少人数ではありましたが参加できて貴重な時間だった。ただ、もっと身近な話の方が参加しやすいかとは思った。ありがとうございました。(山田 恵)

## ＜この一冊＞ 上橋菜穂子作『鹿の王』 角川文庫・第1～5巻 2018年

今年アニメ化されたい作品です。作者は「守り人シリーズ」、「獣の奏者」など子ども向けの人気ファンタジーを書いています。

新型コロナが中国の武漢から世界中に広がり、2年半ほど私たちの生活は一変し、今後もどうなるか分からない状況に、今回のウクライナ侵攻。そんな中、私にはこの物語がファンタジーではなく、予告された現実のように思えてなりません。

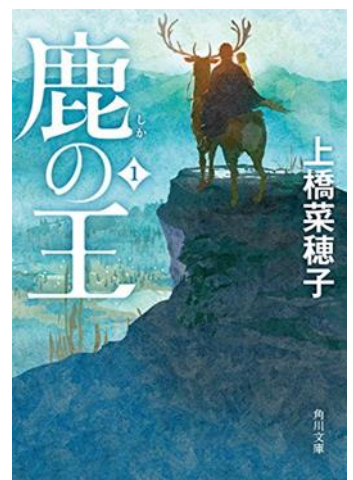
動物を起源にする伝染病と、それに免疫を持ってしまった人間。国民や民族の苦しみ、為政者の身勝手さ。そんな状況で伝染病と向き合う医者・まさにいまの社会そのものなのです。

また、新しい医学と古来の医術の縄張り意識、それらを融合させようとする努力。生きるということとはどういうことなのか、病気を克服するということ単に

その病を治し、まったく健康になることなのかということも、高齢となった私には現実に突きつけられている問題なのです。西洋医学優先だった医学の世界も、最近では西洋医学と中医薬を融合させる治療なども行われているようです。

生きることについて、様々考えさせてくれる作品だと思います。子ども向けどころか、全年令層が引き込まれると思います。

(北川はるか)





## この一冊 A.アインシュタイン、S.フロイト著、浅見訳『ひとはなぜ戦争をするのか』

講談社学術文庫 2016年 第3刷

アインシュタインが国際連盟の国際知的協力委員会(彼もその1人)の意向を受けて「人間を戦争というくびきから解き放つことはできるのか」をテーマに、助言を求めたのが心理学者フロイトである。

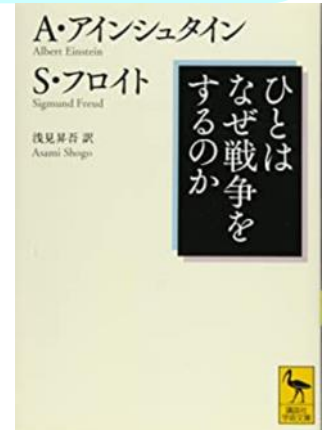
アインシュタインは平和への努力に抗う「悪しき力」として、国家の指導的立場にいる者たちの「権力欲」と自らの利益のために彼らにすり寄るグループの存在とを挙げる。しかし戦争が起きれば苦しむだけの圧倒的多数の国民が、少数の「悪しき力」の欲望に手を貸し、自分を犠牲にしていくのはなぜなのか。意外にも彼は、人間には「憎悪にかられ、相手を絶滅させようとする欲求」が潜んでいるからではないかと、「国民」の心に舵を切る。(「悪しき力」の諸問題について委員会は多分野の賢人に問うつもりでいたのではないか)

フロイトは人間の生の欲動、つながりを求める欲動(エロス)と死の欲動、破壊欲動(タナトス)とから説明する。「一方を善、他方を悪」と決めつけることはできないが、戦争の誘因となるのが破壊欲動なら、つな

がりを求めるエロスを呼び覚ませばよいのではないか。「人と人之间的感情と心の絆を作り上げるものは、すべて戦争を阻むはずなのです」。

さらに、文化が生み出す顕著な現象の一つとして、知性が強まり、力を増した知性は破壊欲動をコントロールし始めるのだともいう。「文化の発展を通して培われた私たちの心は、相手に対して破壊欲動を発動させることに抵抗し、反対せざるをえない。」そして「文化の発展が生み出した心のあり方と、将来の戦争がもたらすとてつもない惨禍への不安」、これらが戦争をなくす方向に人間を動かしていくのではないかと結ぶ。

ウクライナ戦争が激しさを増したいま、考える素材の一つとして薦めます。(末永 豊)



## &lt;大阪だより その5&gt; 「&lt;維新の会&gt;に京都も突き破られたが・・・」

私自身は京都府出身で、京都人の「大阪が経済都市やゆうても古都にはかなわへん」というプライドを肌で感じてきたので、これまで大阪維新の会の勢力が大阪府で急拡大して兵庫県にも広がっても、京都には波及しなかったことに納得していました。だが、先日4月10日府知事選と、同時に行われた京都市北区の府議補選で、維新の新人38歳が当選したことには衝撃を受けました。

ネット検索しても本人のホームページが見つからずプロフィール詳細不明、でも黄緑のウィンドブレーカーで街頭演説する写真と、吉村大阪府知事との連名ポスターの写真は見つかりました。維新の黄緑色と若さだけが目に残ります。

私は、京都も格差が広がり、景気の地盤沈下から這い上がることに必死なんだなと感じました。1990年代から新自由主義が進んで、賃金が上がらず自己責任の「冷たい社会」となり、コロナ禍で生命さえ守れない「もろい社会」が露わになって、京都だけ別格というわけにはいきません。また、私も気付けば大阪の

弁護士になり10年以上、大阪府内で子育てしていて、大阪府民として地域に責任を持たねばなりません。

維新は府議会議席占有率58%、市議会48%で、府下地方議員243人、自治体の首長18人で、議員定数削減も公金支出のカジノ誘致も何でも法案が通ってしまう状況です。しかし、一部メディアに変化の兆しがあり、府民の願いとの乖離が見え出したように思います。「発言に責任を持つ」というルールを無視する政治家の発言について、垂れ流しはダメだとする報道人の誇りに期待します。

(宮本亜紀)



(娘と最近の私)

哲学カフェ 第27期(2022年前半)例会予定 \*毎月第2木曜日、午後7:00~9:00 ふれあいスペース  
⇒ コロナ警報で中止の場合あり、テーマも変更あります。連絡下さい。

第163回例会 1月13日(木)	「世の中を明るくするには何が必要か？」 * コロナ禍2年。慣れるどころか、第6波も心配で、疲れだけが蓄積するこの頃。	終了 しました
第164回例会 2月10日(木)	「日本は民主主義国家なのですか？」 * バイデン大統領主催の「民主主義サミット」に、中国は反発。日本はもちろん参加。	休止します
第165回例会 3月10日(木)	テーマ変更「プーチンのウクライナ侵略にどう立ち向かうのか？」	終了 しました
第166回例会 4月14日(木)	「天皇制・皇室のいま、これからどうするの？」 * 昨年メディアがむやみに取り上げた眞子さん結婚問題。放っておいたら良いのに。 * 肝心の女性天皇や女性宮家の問題については、またもや放置。どうするのかね。	終了 しました
第167回例会 5月12日(木)	「いまミャンマーはどうなっているか、あらためて考える」 * ウクライナ侵略とともに、忘れてはいけないミャンマー軍政の弾圧。国民の抵抗も続けられています。 * 今回、ミャンマーへの大学教育支援、留学生の受け入れなどを長年行ってこられた仲澤和馬教授(岐阜大・物理学)に話していただき、意見交換します。	
第168回例会 6月9日(木)	「18才成人」問題を考える	
第169回例会 7月10日(日)	未定 → 創立14周年記念行事を3年ぶりに開催めざします。	

哲学カフェの運営資金の協力も、よろしくお願ひします。

口座記号・口座番号 00810 1 142912

加入者名 哲学カフェ de ぎふ、千秋まちかど文庫

「哲学カフェ de ぎふ」ホームページ 毎回更新中 !!

<http://tetsugakucafegifu.jimdo.com/>

右のQRコードをスマホなどで読み取ると、「哲学カフェ de ぎふ」のホームページが開きます。ぜひ閲覧願ひます。友人・知人に拡散いただければ幸いです。



★ウクライナでの悲惨な映像を観るたびに一日も早い停戦を願ひ、声高に勝利を叫ぶ指導者たちの映像を観るにつけ深い悲しみにおそわれる。一人殺せば殺人罪なのに、なぜか戦争ではたくさん殺せば褒められ、勲章(名誉)までもらえる。「国家」から。

★なぜなのか？ その秘密は、「戦争とは国家と国家の紛争を武力で解決すること」にある。戦争は自然現象のように「起こる」のではなく、「国家」の権力を握っている政治勢力によって「引き起こされる」のである。

民衆はお互い仲良くしたいし、殺し合いはしたくないのに、国家に組み込まれ、戦争の犠牲者になる。

★今回のウクライナ戦争でも、大ロシア主義を掲げるプーチンの「ロシア」国家と、ウクライナ民族主義をバックにしたゼレンスキーの「ウクライナ」国家が衝突し、前者が「ロシア人迫害」理由に先制攻撃をして始まったものだった。両国では、ロシア人とウクライナ人が仲良く共存してきたのに。

★いったん国家間の戦争になると、勝つまでがんばれとなって、終わるのはむづかしい。だが、ウクライナ人も、ロシア人もお互い憎み合いたくないし、闘い合いたくはないはずである。ここが原点であり、「国家」権力によってもたらされた民衆(民族)分断=戦争を終結させる根本的な力になるのではないだろうか。

★それゆえ、ロシア、ウクライナ双方で、両民族間の融和をはかる政治・施策が何よりも優先させなくてはならないように思われる。その点で、クリミア半島占拠後に行われた「ミンスク合意」にもう一度立ち戻ることもムダではないように思われる。だが、それも当事者たちの判断であり、いまは一刻早い休戦を願うばかりである。

★ひるがえって日本に目を向ければ、この機とばかり「先制攻撃能力」が必要だと軍拡を煽る声が大きくなっている。終末戦争をも招きかねない「核兵器共有」論まで唱えている。あらためて、「戦争はしない、させない」声をさらに広げたいものである。

(吉田千秋)